

2020. 8. 12

畑 啓之

加古川市史第3巻にみる「多木久米次郎寄付一覧」は圧巻である

多木化学 (Wikipedia) より

#### 会社概要

日本で初めて人造肥料を開発した企業。「しき島」「タキポリン」や「マグホス」といった複合肥料製品は、全国の特約販売店を中心に販売されている。園芸や関連する製品を数多く生産している。土壌改良材でも数多くの製品を持つ。肥料分野では国内大手メーカーの1つであり、日産化学工業、三菱化学と共に日本の農業分野の発展に大きく影響を及ぼした。

戦時中の1944年には、住友化学工業と共に、住友精化の設立に参加したことで知られる。本社工場と住居所に住友精化があり、多木化学が土地を譲渡している。

#### 沿革

1885年(明治18年) - 初代社長多木久米次郎が現在の兵庫県加古川市において、我が国最初の人造肥料として、個人で蒸製骨粉の製造を開始して以降、過燐酸石灰、その他各種肥料の製造販売をおこなう。

初代社長の多木桑次郎は、加古郡別府村で代々農業、醤油醸造業、魚肥商などを家業とする地主の多木勝市郎とシカの3男として安政6年(1859年)に生まれ、20歳で家業を継いだ。当時主要肥料だった鰾粕の高騰により困窮する農家のために明治18年(1885年)に獣骨を使った日本初の蒸製骨粉製造を始め、明治23年(1890年)より骨粉を原料とした過燐酸石灰の化学肥料製造を開始した。

村議(明治22年)、県議を経て、明治41年(1908年)には衆議院議員に当選(以降当選6回、政友会)。同年欧州旅行の帰路に満州・朝鮮に立ち寄り、日韓併合以降、朝鮮で農場、鉱山、山林の経営に着手。兵庫県農会長なども務め、農業界への貢献により大正4年(1915年)に藍綬褒章、翌年に紫白綬有功章を受賞。

表 69 多木久米次郎の寄付金年譜一覧 (寄付金500円以上のもの) (1)

年代	金額	寄付金宛先	寄付名目
1905 (明治38)	1,000	大日本農会	附属農学校奨励基金
〃	1,480	加古郡別府村	別府港内浚渫費
1906	1,367	〃	別府港防波堤捨石工事費
〃	1,020	〃	別府港内浚渫費
1907	1,000	帝国海軍協会	海事思想普及費
〃	575	加古郡別府村	別府港防波堤捨石工事費
1908	3,000	忠勇顕彰会	維持費
〃	855	加古郡別府村	別府港防波堤捨石工事費
1910	1,000	兵庫県支部長	
〃	800	阿閉村立尋常高等小学校	基本財産
〃	1,400	加古郡農会	郡農会長在職中事業費
1911	3,500	加古郡	郡道別府線新築費
〃	850	石川県羽咋郡火打谷村	県道に至る道路新設費
1912 (大正元)	1,000	米国大統領	日米親善(七宝焼花瓶1対)
1913	1,000	私立東京農業大学	基本財産
1914	500	東北九州災害救済会	大正2年北海道外6県 大正3年桜島爆発災害救済費
〃	1,000	兵庫県農会	各郡稲立毛多収穫共進会副賞
〃	12,000	岡山・山口・福岡・佐賀・熊本 ・宮崎・愛媛・高知・三重・滋 賀・岐阜・鳥根各県	米作多収穫奨励
〃	600	鳥取県	米作多収穫奨励
〃	500	鹿児島県	米作多収穫奨励
〃	700	和歌山県	米作多収穫奨励
〃	500	富山県	米作多収穫奨励
〃	500	鹿児島県	桜島爆発罹災者窮民賑恤
1915	2,000	兵庫県農会	各郡稲立毛多収穫共進会副賞
〃	500		兵庫県下桑園改良費
〃	650	山口県農会	麦作多収穫奨励
〃	3,500	兵庫県	別府港・土山駅間県道改修費
〃	2,500	兵庫県	別府港・土山駅間県道拡張に要 する敷地料
〃	2,500	兵庫県	米作多収穫奨励 別府港より尾上・高砂を経て荒 井村に通ずる県道改修費

農村にしわ寄せとなつて窮乏化をもたらしているとの認識があつたのである。さきに触れた米穀法をめぐる活動においても、久米次郎は、同様の意識を抱いていた。つまり、米の輸入関税撤廃などの施策は、消費者利益を優先し、中央都市部への米の供給量確保を第一に考えた、まさに都市偏重・農家軽視の施策であると指摘し、内地農家の保護を訴えたのであつた。

また、久米次郎は議会の場で、郷里に関係したさまざまな建議も行なっているが、これらも右に述べたような彼の地方重視の主張に通ずる活動であつたといえよう。その主なものについて具体的にみてみよう。

一九一五年(大正四)五月開会の第三六議会において、まず、「兵庫県加古川河川改修」の請願を紹介議員として提出している。また、続く第三七議会においても加古川河川改修の件で請願を出すとともに、別府村の隣にあたる加古郡阿閉内本荘村に郵便電信局を設置する件についても請願を提出している。一九二五年(大正一四)一二月からの第四六議会では、予算委員となり、土山と三田間の鉄道敷設に関する建議、高砂港修築に関する建議、加古・印南両郡の合併に関する建議をそれぞれ提出し、いずれも可決された。このほか、昭和期に入つてからも、地元利益に関わる数々の建議を行なっているが、そこからは、彼の企業家としての顔も垣間見ることができ、加古川地方の有力者多木久米次郎の多岐にわたる幅広い活動ぶりがうかがわれる。

多木久米次郎の寄付金年譜一覧

さて、ここまで多木久米次郎の名望家としての活動について、国会議員在任期間中の彼をあげておくことにする。これは、久米次郎が在世中に行なつた寄付金・寄付物件を一覧表にしたものである。名望家として、久米次郎は、地元加古川地方を中心に農業振興・学校教育などさまざまな方面に出資し

(3)

年代	金額	寄付金宛先	寄付名目
1921 (大正10)	196,747	兵庫県立農学校	農事振興農家子弟教育(敷地・校舎)
1922	2,000	朝鮮全羅北道益山郡	道路改修費
〃	1,000	朝鮮慶尚北道慶州保存会	基本財産
〃	10,000	明石市大蔵谷女学院	大学部新敷地購入及び後援資金
〃	5,000	加古郡	加古郡直通常備[ ]
〃	2,000	朝鮮京畿道	抱川・徳亭里に至る道路改修費
〃	1,000	朝鮮□立裡里農林学校	建築費
〃	950	加古郡別府村	別府港西突堤捨石工事
〃	1,000	朝鮮全羅北道	金堤郡白山面より進鳳面に至る万頃道路改修費
〃	2,000	朝鮮全羅北道	益山郡黄登より咸悅に至る道路改修費
1923	6,500		別府・新在家間道路修築費
〃	12,750	加古郡別府町住吉神社	献納(石大鳥居他)
〃	1,000	加古・印南兩郡朝鮮視察団	旅費
〃	10,000	東京都	関東大震災救恤
〃	1,000	朝鮮全北州農学校	奨学資金
〃	2,000	朝鮮全羅北道金堤警察署	進鳳警察官駐在所建築費
1924	1,000	朝鮮全羅北道進鳳面	公立普通学校建築費
1925	30,000	兵庫県立加古川中学校	校舎建築費
〃	1,000	兵庫県	但馬・震災救恤
1926 (昭和元)	500	朝鮮京城大日本日林会	維持費
〃	23,715	加古郡別府町	別府港湾改修費
〃	1,000	兵庫県立明石中学校	
〃	1,000	朝鮮全羅北道進鳳面	公立普通学校建築費
〃	594	加古郡別府町	別府港内浚渫費
1927	1,000	京都府	丹後地方震災義損金
〃	800	北海道帝国大学	奨学資金
〃	500	加古郡神野村西條永昌寺	庫裡改築費
1928	500		北九州災害義損金
〃	2,000	加古郡別府町	西脇村内道路新設費
〃	800	北海道帝国大学	米の研究費
〃	6,000	兵庫県加古郡外7郡農会	米麦多収穫共進会賞品

(2)

年代	金額	寄付金宛先	寄付名目
1915 (大正4)	1,000	京都同志社大学	基本財産
〃	4,500	愛媛県外5県農会	米作多収穫奨励
1916	1,000	高知県農会	米作多収穫奨励
〃	500	日本基督教組合教会	朝鮮教化事業資金
〃	2,000	兵庫県農会	各郡米麦作多収穫共進会副賞
〃	500	兵庫県農会	兵庫県桑園改良奨励費
〃	2,000	村立別府尋常高等小学校	講堂建築費
〃	2,700	三重県外2県農会	米作多収穫奨励
〃	1,000	村立別府尋常高等小学校	教育職務勉勵手当給与基本積立金
〃	2,000	兵庫県農会	各郡米麦作多収穫共進会副賞
〃	500	兵庫県農会	兵庫県桑園改良奨励費
〃	500	聯合國傷病兵罹災者慰問会	慰問
〃	1,000	兵庫県救済会	事業費
〃	3,200	兵庫県農会	同事務所建築費
〃	5,548	京都府外22県農会	米作多収穫奨励費
〃	9,500	加古郡別府町	別府港東海岸護岸工事費
1917	2,000	兵庫県農会	各郡米麦作多収穫共進会副賞
〃	500	兵庫県農会	兵庫県下桑園改良奨励費
〃	500	有馬郡三田中学校	基本財産
〃	1,000	朝鮮総督府工業専門学校	研究費
〃	1,000	関西学院	校舎再建築・拡張資金
1918	5,580	京都府外26県農会	米作多収穫奨励費
1919	2,000	理化学研究所	研究費
〃	1,000	帝国森林会	維持費
〃	2,670	鹿児島県外10県の農会	稲作多収穫奨励費
〃	3,000	朝鮮全北金堤郡	金堤より南浦深浦に至る道路新設費
1920	4,790	兵庫県各郡農会	米麦多収穫品評会賞品
1921	815	加古郡別府町	別府港西突堤捨石工事費
〃	1,000	朝鮮山林会	林業功労者表彰資金
〃	1,000	咸悅公立普通学校	基本財産
〃	1,000	朝鮮全羅北道全州工業学校	基本金
〃	1,700	加古郡別府村	消防機械器具購入資金

(5)

年代	金額	寄付金宛先	寄付名目
1934 (昭和9)	1,093	加古郡外7都市農会・各町村農会	稲作多収穫共進会副賞
〃	4,094	加古郡別府町	別府港内浚渫費
〃	1,000	神戸村野工業学校	創意発明奨励
1935	5,000	教化団体聯合会	事業費
〃	500	朝鮮忠清南道	錦江百済船橋架設費
〃	1,722	加古郡外7都市農会・各町村農会	稲作多収穫共進会副賞
〃	1,000	朝鮮全羅北道金堤郡進鳳面事務所	進鳳面事務所新築費
1936	500	第11回国際オリンピック大会後援会	体育向上奨励
〃	10,070	加古郡別府町	別府港南防波堤嵩上費
〃	30,000	兵庫県	兵庫県立加古川中学校建設費
1937	2,700	東京帝大播州学生寮	寮建物敷地代三カ年分
〃	1,000	兵庫県	郷土出征将兵慰問金
〃	1,000	神戸新聞社	郷土出征将兵家族慰問金
〃	1,000	愛国婦人会兵庫県支部	軍用飛行機献納資金
〃	5,000	大阪朝日新聞社	軍用飛行機献納資金
〃	500	朝鮮金堤郡進鳳普通学校	運動器具設備費
〃	100,000	兵庫県	兵庫県出征将士遺家族慰問金
〃	500	全羅北道金堤郡進鳳面消防組	消防器具購入・警鐘台建設費
〃	5,000	朝鮮警察協会	警察専用電話架設の援助
1938	2,100	加古郡平岡村	県道舗装費平岡村負担金
〃	10,000	兵庫県	県下軍事扶助費
〃	3,380	神戸市	神戸水害見舞
〃	10,000	海軍恤兵部	支那事変海空軍将兵慰問恤兵金
〃	10,000	陸軍恤兵部	支那事変陸空軍将兵慰問恤兵金
〃	500	茨城県社会事業協会	水害義損金
〃	1,000	朝鮮全羅北道	全州公立中学校設置費
〃	1,000	富山県	氷見町大火義損金
〃	1,000	帝国軍人後援会	翼賛費
1939	1,000	武庫郡芦屋女学校	

(4)

年代	金額	寄付金宛先	寄付名目
1929 (昭和4)	1,000	朝鮮慶尚北道盈徳郡盈徳面普通学校	基本財産
〃	4,200	加古郡外7都市農会・各町村農会	稲作多収穫共進会副賞(物品)
1930	111,219	加古郡別府町	別府港湾拡張修築費
〃	1,000	朝鮮総督府農事試験場	南朝支場建設費
〃	1,000	帝国飛行協会	東善作・吉原清次飛行士表彰
〃	4,600	加古郡外7都市農会	稲作多収穫共進会副賞
〃	1,403	加古郡別府町	別府港内浚渫費
1931	2,700	加古郡阿閩村	里道修繕費
〃	10,000	加古郡外7都市農会・各町村農会	稲作多収穫共進会副賞
1932	機械工具 +700	兵庫県立明石中学校	手工奨励工業館1棟増設費
〃	1,100	兵庫県立明石中学校	実業教育施設費
〃	500	新島会館	新島会館建設費
〃	1,000	国際オリンピック大会後援会	体育向上奨励
〃	35,000	加古・印南郡30か村	学校工作科の手芸材料備品等の購入費(白米1,500石)
〃	5,000	加古郡別府町	別府川護岸工事
〃	10,000	加古郡外7都市農会及町村農会	稲作多収穫共進会副賞
〃	750	加古郡高砂小学校	
1933	架橋材料 +3,000	加古郡別府町	別府町対潮橋架設換費
〃	505	加古郡別府町	別府港内浚渫費
〃	10,000	朝鮮総督府	朝鮮癩子防会基金
〃	546		小学校奉安殿建設費
〃	5,000	加古郡別府町	別府川両岸護岸石垣・道路拡張費
1934	3,000	別府町立尋常高等小学校	御真影奉安殿
〃	937	兵庫県立農学校	実習用手工機械1基・付属品1式
〃	750	高砂町尋常高等小学校	
〃	1,030	兵庫県立農学校	実習用ボイラー1基・付属品1式

表 70 多木久米次郎の寄付物品年譜一覽

(1)

年代	寄付物品	寄付物品宛先	寄付名目
明治26年 (1893)	自家製肥料30箱	兵庫県勸業会	農事奨励
明治33年	瓦葺土築塀・煉瓦塀	別府村宝蔵寺	菩提寺へ寄進
明治40年	裸麦種子30石	岐阜県下各郡農会	麦作改良奨励
明治41年	多木麦肥料500貫	韓国中央農会	農事奨励
明治44年	藁帽子110個	別府村尋常高等小学校	防暑用
大正1年 (1912)	回旋機1台外3点	石川県羽咋郡高浜尋常高等小学校	手工教育奨励費
大正2年	桜樹	加古郡大野村日岡神社	神社境内緑化
大正3年	金屏風	懷徳堂記念会	
大正4年	石製門柱懸時計	佐用郡立農産学校	
〃	多木肥料50噸	神戸市農会	農事奨励
〃	猪2頭	東京帝国博物館動物園	動物愛護
〃	恤兵用品	兵庫県	大正3・4年戦役恤兵品
大正5年	軽便椅子300脚	加古川町	公会堂備品
〃	軽便椅子100脚	高砂町役場	会議堂備品
〃	玉垣	尾上村養田宮ノ東崎ノ宮神社	献納
〃	軽便椅子100脚	揖保郡役場	会議堂備品
〃	外米20俵	加西郡役所	難民救済
大正7年	白米・外米326袋	加古郡二見村役場	米価騰貴救済
〃	精米10石	加古郡	水害による罹災者救済
〃	精米10石	美方郡	水害による罹災者救済
〃	内地精米15石	城崎郡	米価騰貴に対する操作米備品
大正8年	軽便椅子100脚	栃木県農会	備品
〃	軽便椅子300脚	印南郡	公会堂備品
〃	鳥居1基	二見村福里神社	献納
大正9年	石造鳥居1基	加古郡別府町住吉神社	献納
大正10年	桜樹500本	朝鮮全羅北道井邑郡内蔵面内蔵寺	境内緑化
大正11年	桜樹1,000本	朝鮮全羅北道井邑郡	内蔵山植樹
大正13年	石造灯籠1対	加古郡別府町住吉神社	献納
〃	桜苗木6,000本	南満州鉄道京城鉄道局	各駅構内植樹
〃	別府村役場庁舎1棟	加古郡別府村	村発展
大正15年 昭和3年 (1928)	肥料50噸 桜苗木9,200本・楠苗木16,000本	加古郡高砂町高砂神社 北海道帝国大学	相生松施肥用

(6)

年代	金額	寄付金宛先	寄付名目
1939 (昭和14)	1,000	武庫郡県社西宮神社	基本金献納
〃	1,000	神戸市長田神社	基本金献納
〃	1,000	別格官幣社湊川神社	基本金献納
〃	2,000	大日本防空協会	事業費
〃	8,147	兵庫県農学校	実習用温室・給水設備費
〃	1,000	加古郡別府村	軍事後援費
〃	100,000	朝鮮全羅北道	裡里公立工業学校設立費
〃	300,000	朝鮮全羅北道裡里公立工業学校	裡里邑公会堂建設費
1940	1,000	兵庫県立明石中学校	忠魂碑建設費
〃	2,000	国際文化振興会	
〃	1,000	紀元2600年奉祝会兵庫県支部	記念事業費
〃	10,000	兵庫県立明石中学校	奨学金
〃	6,000	朝鮮全羅北道全州神社	造営費
〃	2,000	大日本防空協会兵庫県支部	防空事業資金
〃	1,000	台湾総督府	震災救護費
〃	1,000	紀元2600年記念建造物建設期成会	記念事業費
〃	1,500	結核予防会兵庫県支部	事業資金
1941	1,000	金堤高等女学校	手工機械購入費
〃	20,000	兵庫県	別府・土山間道路路面拡張費

〔注〕『多木久米次郎草稿』

ており、他県へも寄付金などを行なったほか、農場を經營していた朝鮮全羅北道へも頻に寄付行為を行っていたことがうかがわれる。本節で言及できなかった内容も含め、名望家多木久米次郎の活動ぶりがわかる資料であるため、参考までに掲げておくことにしたい。なお、この表は、多木久米次郎伝記編纂会が『多木久米次郎』を編さんする際、そのもとにした草稿に収められていたものである。本節および第九章第二節の叙述にあたっては、史料の制約からこの草稿に全面的に依拠したが、

(2)

年代	寄付物品	寄付物品宛先	寄付名目
昭和4年 (1929)	山林5反7畝14歩・柴山神社	石川県鹿島郡西島村半の浦村社	基本財産
昭和6年	公債200本	朝鮮慶尚北道盈徳公立尋常小学校	基本財産
〃	公債1,000本	朝鮮全羅北道庁	水稲試験場費
〃	公債1,000本	全羅北道金堤郡進風面公立普通学校	増築・設備費
〃	公債10,000本	加古郡外7郡市農会・各町村農会	稲作多収穫共進会副賞
昭和7年	粳40石	朝鮮全羅北道	貧民救済・道路修理事業補助
〃	白米1,500石	加古・印南郡30カ町村	学校工作料の手芸材料備品等の購入費
〃	七宝焼花瓶2対	米人飛行家ハーランド・パンクホーン	太平洋横断飛行成功表彰
昭和8年	白米40石	加西郡	罹災者救済
〃	桜楓数100本	多可郡中町	杉原川改修竣工記念植樹
〃	公債3,446本	加古郡外7郡市農会・各町村農会	稲作多収穫共進会副賞
昭和10年	石造鳥居1基	加古郡阿閉村本荘阿閉神社	献納
〃	自動車2台	兵庫県立明石中学校	理科学教育資料
昭和11年	楠500本	神戸商業大学	校庭植樹
昭和12年	自動車1台	加古川中学校	理科学教育資料
〃	大奉安殿鉄骨・国旗掲揚台・運動器具	朝鮮全羅北道益山郡咸悦公立小学校	
〃	自動車1台	兵庫県立農学校	理科学教育資料
昭和13年	石造鳥居1基	加古郡尾上村浜宮天神社	献納
〃	神社玉垣	別府町新野辺住吉神社	献納
〃	石造鳥居1基	加古郡野日村野日神社	献納
〃	鳥居1基	加古郡高砂町高砂神社	献納
昭和14年	慰問袋100個	姫路聯隊司令部	出動将兵慰恤
昭和16年	梵鐘・鐘樓	別府町北別府教照寺	献納
〃	製氷機3台・製縄機17台	朝鮮全羅北道益山郡咸悦南公立国民学校	実業実習奨励
〃	製氷機20台・製縄機5台	朝鮮全羅北道益山郡黄登旭公立国民学校	実業実習奨励

[注] 『多木久米次郎草稿』

そのことも、ここで併せて明記しておく。

#### 4 別府鉄道の建設

##### 多木の肥料を全国へ

山陽鉄道、播州鉄道の項ですでにみたように、鉄道建設は、その初期の段階においては、あきらかに投資ないしは投機の対象であった。したがって路線建設にあたっては、まず第一義的に考慮されたのは大都市と大都市ないしは大都市と重要港湾をいかに短時間で結ぶかという点であり、そのため通過地域の経済的な発展度よりも工事の難易度のほうが往々にして重視される傾向にあった。

しかしながら、日本列島の骨格をほぼ形成する路線網が一応の完成を見ると、鉄道建設は、既成の幹線による輸送を補完する方向で、いわば地域により密着したかたちの新たな展開をみせるようになる。鉄道史にとって「大正」とは、そういう時代であった。

別府町の別府港とかつての高砂線野口駅ならびに山陽本線土山駅を結んでいた別府軽便鉄道(のちに別府鉄道)は、全国の軽便鉄道が旅客輸送を主目的としていた当時にあつて、他とは若干趣を異にする創業経緯をもつ鉄道である。それは、別府鉄道が、実質的には多木製肥所(現在の多木化学)の製品輸送のための鉄道として計画、建設されたことによる。

別府と加古川を結ぶ鉄道の免許申請は二度行なわれている。一度めは一九一一年(明治四四)のことで現在の加古川町篠原と別府港を結ぶ路線の免許を同年一〇月に取得しているが、一九二三年(大正一三)八月にはこ